

## 資料

## 子どもの電子メディア接触に関する保護者の意識

—認定こども園などに通う子どもの保護者を対象に—

Parents' attitudes about children's electronic media contact:

A survey of guardians of children attending authorized nursery schools

甲斐 鈴恵<sup>1</sup>Suzue Kai<sup>1</sup>

## 抄録

＜目的＞子どもの電子メディア接触に関する保護者の意識を明らかにし、今後の啓発活動における示唆を得ることを目的に本研究に取り組んだ。＜対象＞A県認定こども園に通っている子どもの保護者。＜方法＞無記名式郵送調査。＜結果＞20園、1,652世帯（有効回答率76.6%）を分析対象とした。子どもの電子メディア使用場面は、アニメ・特撮、幼児教育、娯楽視聴の順であった。1,057世帯が「ルールを設けている」と回答し、内容は、【利用時間に関するもの】【使用環境に関するもの】ほか。良い影響は、【知識・教養が豊かになる】【共通の話題が見つかる】ほか。悪い影響は、【視力の低下・悪化】【依存性が高まる不安】ほか。保護者は両方の特性を意識しており、心身への悪影響について記述数が多い現状が明らかとなった。保護者の思いを支持しつつ、さらに、子どもの成長発達や親子の触れ合いを推奨する具体的な支援の取り組みが重要である。

キーワード：電子メディア、保護者の意識、使用時のルール、良い影響、悪い影響

Key Words：electronic media, parents' attitudes, rules of use, merit, demerit

## I. はじめに

テレビ放送が始まり、テレビゲームが売り出され、ビデオ・パソコン・携帯電話・スマートフォン・インターネットなど、新しい電子映像メディア機器（以下、電子メディア）が次々と登場し、電子メディアに接触する機会が増えた。日本小児科医会により、電子メディア接触に関する以下の5つの提言（武居，2005）、「①2歳までのテレビ・ビデオ視聴を控えましょう、②授乳中・食事中のテレビ・ビデオの視聴は控えましょう」ほかが出された。さらに、これらについて、具体的な行動計画が提示された（日本小児科医会，2004）にもかかわらず、電子メディア接触時間は減少することなく、接触年齢も低年齢化を示している。0歳児の46.7%がすでに電子メディアに接触していることや5時間以上接触している乳幼児がいることが報告されている（甲斐，吉田，2018）。

電子メディアは、さまざまな情報が素早く収集できる一方、長時間の電子メディア接触によって、視力の低下や、体幹の筋肉・筋肉感覚・身体操作能力が育たないなど（清川，2015）が危惧されている。子どもの発達や行動についての意識調査（澤井，浅野，藤本他，2005）では、3歳から就学前児において、視聴時間が3時間以上の群で「コミュニケーションが取れない」「言葉が遅れている」などの項目が、2時間以内視聴群に比べて有意に多いこと、また、情緒不安定な面が見られたことが報告されている。

電子メディアの利点や欠点の情報が多様に提供されており、子どもの電子メディア接触の状況について保護者がさまざまな思いを抱いているのではないかと推測した。電子メディア接触時間が長時間化している（甲斐，吉田，2018）ことから、子どもの健やかな心身発達を育むためには、接触時間を減少させる必要性を感じた。しかし、一方的に接触時間の減少を訴える啓発では、保護者の行動変容につな

受付：2018年11月15日 受理：2019年8月27日

\*1 宮崎県立看護大学/Miyazaki Prefectural Nursing University

らないと考えた。そこで、子どもの電子メディア接触に関する保護者の意識を明らかにし、今後の啓発活動における示唆を得ることを目的に本研究に取り組んだ。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 対象

A 県認定こども園に通っている子どもの保護者。

### 2. 調査期間

2017 年 8 月 10 日～9 月 20 日。

### 3. 調査内容

無記名式質問紙調査：B 県 C 市保育会・私立保育園協会園児生活実態調査（玉名市保育会，玉名市立保育園協会，2013）の調査用紙使用許可を得て加筆修正・改変し、新たに調査用紙を作成した。

- 1) 質問紙の内容は、同居家族の有無、起床・就寝時間、朝食摂取の有無などの基本的な生活習慣、絵本の読み聞かせの有無、親子のかかわり方について、2～5 の選択肢を提示した。質問は合計 26 項目。
- 2) 電子メディア接触について、①24 時間表に接触時間を直接線で記入、②子どもがテレビやゲーム・スマートフォンなどを「どのような場面で使用しているか」について多肢選択・複数回答、③「ルールがある家庭はどのようなルールか」、「子どもに与える良い影響」、「子どもに与える悪い影響」について、自由記述形式で回答を求めた。

本調査では、テレビ・ゲーム・ビデオ・パソコン・携帯電話・スマートフォン・インターネットなどを電子メディアと定義した。

### 4. 調査方法

本調査は地域貢献等研究推進事業として「子どもとメディアみやざき」と連携して行った。

- 1) A 県幼稚園連合会、一般社団法人保育連盟連合会、幼保連携型認定こども園の会長・理事長へ調査協力依頼を行った。
- 2) A 県内全域から人口割合に応じてランダムに 20 園を選定した。県央 8 園、県北 5 園、県西 5 園、県南 2 園。2,157 世帯、園児数 2,658 名。

3) 各園長へ、保護者への研究協力依頼と調査用紙の配布・回収、回収期日以降に研究者へ返信封筒にて郵送いただけるよう依頼した。

4) 調査用紙が提出されたことをもって研究への同意を得たとみなした。

### 5. 分析方法

基礎調査項目については単純集計を行った。電子メディア接触時間については、30 分単位で集計を行った。自由記述については、意味内容の同質性・異質性から分析の信頼性と妥当性を高めるため、研究者間で共通の見解が得られるまで討議を重ねカテゴリー化した。記述項目を「」で示し、カテゴリーを【】で示した。

### 6. 倫理的配慮

所属機関の倫理審査委員会の承認を得た。保護者への依頼文書には、研究への参加の有無は、本人の意志であること、断っても不利益がないこと、封書で提出するため園長他職員に個人情報が開示されることがないことを明記した。園長への依頼文書には、各園が特定されないこと、個人情報に関する内容は伏せること、全員分の回収をお願いすることはないことなどを明記した。

また、利益相反はない。

## Ⅲ. 結果

### 1. 有効回答数

県央 8 園、県北 5 園、県西 5 園、県南 2 園、合計 20 園の 1,675 世帯（回収率 77.7%）から回答を得、有効回答であった 1,652 世帯（有効回答率 76.6%）を分析対象とした。

### 2. 属性

対象地域は、県央が最も多く 712 世帯（43.1%）、次いで県北 422 世帯（25.5%）、県南 294 世帯（17.8%）、県西 224 世帯（13.6%）であった。

回答を得た子どもの年齢構成は、0 歳 150 名（6.7%）、1 歳 256 名（11.4%）、2 歳 274 名（12.2%）、3 歳 385 名（17.1%）、4 歳 439 名（19.5%）、5 歳 459 名（20.4%）、6 歳 287 名（12.7%）であった。

### 3. 電子メディア接触時間

#### 1) 接触している人数および割合

平日は、0歳64名(42.7%)、1歳217名(84.8%)、2歳258名(94.2%)、3歳368名(95.6%)、4歳421名(95.9%)、5歳443名(96.5%)、6歳227名(96.5%)であった。休日は、0歳61名(40.7%)、1歳202名(78.9%)、2歳244名(89.1%)、3歳351名(91.2%)、4歳394名(89.7%)、5歳426名(92.8%)、6歳269名(93.7%)であった。

#### 2) 1日あたりの平均接触時間(標準偏差)

平日は、0歳61.0±97.3分、1歳139.0±104.0分、2歳167.0±108.0分、3歳164.0±100.0分、4歳167.0±96.2分、5歳175.0±102.0分、6歳174.0±95.3分であった。休日は、0歳87.0±138.0分、1歳179.0±163.0分、2歳218.0±160.0分、3歳226.0±148.0分、4歳229.0±161.0分、5歳251.0±160.0分、6歳269.0±166.0分であった。

### 4. 親子のかかわり方

#### 1) 就寝前の絵本やお話

「いつもしている」574世帯(34.7%)、「時々している」783世帯(47.4%)、「していない」241世帯(14.6%)、「無回答」54世帯(3.3%)であった。

#### 2) 家族が子どもと一緒に遊ぶ時間

平日は、「1時間未満」739世帯(44.7%)、「1時間以上」752世帯(45.5%)、「ない」129世帯(7.8%)、

「無回答」32世帯(2.0%)であった。休日は、「1時間未満」45世帯(2.7%)、「1時間以上3時間未満」492世帯(29.8%)、「3時間以上」1,088世帯(65.9%)、「ない」2世帯(0.1%)、「無回答」25世帯(1.5%)であった。

### 5. 子どもの電子メディアの使用場面(複数回答)(図1)

「アニメ・特撮番組視聴」が1,164世帯(70.5%)と最も多く、次いで「幼児教育番組視聴」が683世帯(41.3%)、「娯楽番組視聴」533世帯(32.3%)、「ゲーム」477世帯(28.9%)、「ビデオ・カメラ」418世帯(25.3%)であった。

### 6. 電子メディアを見る時のルール

ルールを「設けている」1,057世帯(64.0%)、「設けていない」484世帯(29.3%)、「無回答」111世帯(6.7%)であった。

「ルールを設けている」と回答されたルールの記述は、全部で1,313項目あった。記述数は、1世帯あたり0~5項目であった。

特に「時間や時間帯を決める」650世帯、「一定時間後休憩をとる」43世帯、「寝る前の使用禁止」6世帯などの【利用時間に関するもの】がほとんどであった。

次に、「適切な距離を保つ」207世帯、「見る時の

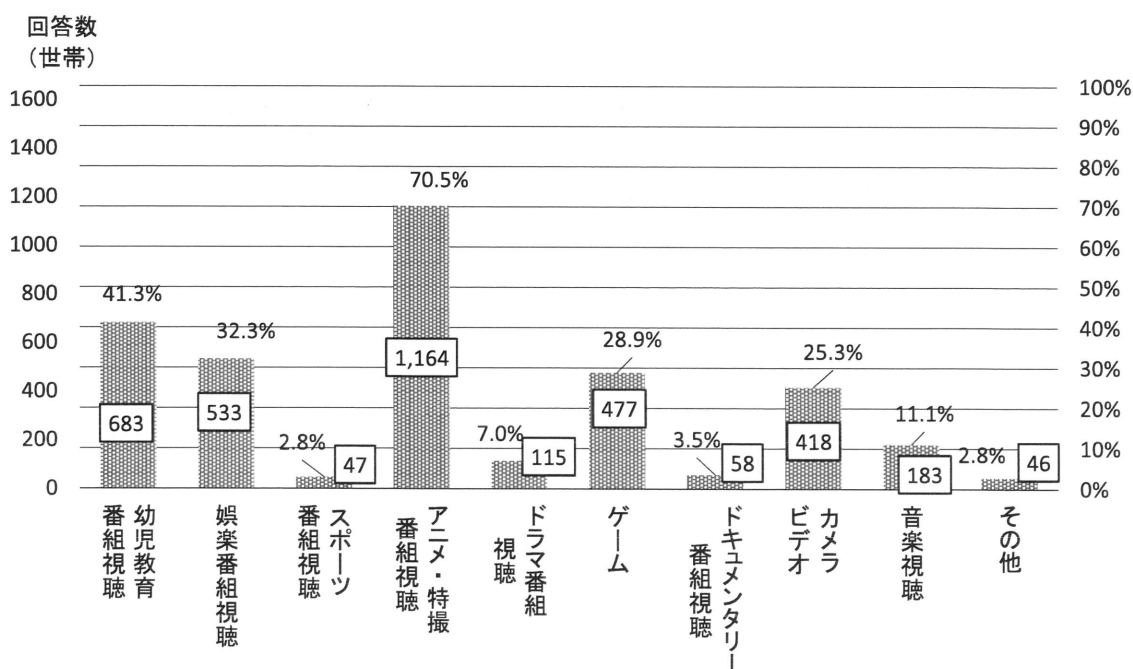


図1 乳幼児の電子メディアの使用場面について(多肢選択・複数回答)

姿勢に気をつける」23世帯、「明るさに気をつける」19世帯などの【使用環境に関するもの】が占めた。

次に、「〇〇が終わったらなどのご褒美や条件をつけて使う」104世帯、「食事中は禁止、ながら使用は禁止」73世帯、「きょうだい、順番など使用回数や、使用個数を決める」52世帯、「静かにさせたい時だけ、ぐずついた時だけ、家事中の時だけ使う」23世帯、「スマホはカメラのみの使用・動画やゲームは禁止」9世帯、「スマホの利用禁止」9世帯、「約束を破ったら使用禁止などの罰則制」7世帯、「親、大人の目の届くところで使う」6世帯などの【利用制限や禁止項目を決める】であった。

「休日・休日前でのみの使用」21世帯、「日数や曜日を決める」7世帯などの【使用日に関するもの】、「親

が終わりと言ったら終わる」24世帯、「内容を親がチェックする」11世帯、「大人がいる時は大人に合わせる」6世帯の【親の言うことに従う】もあった。

少数意見であるが、「基本的に使用させないが、周囲に迷惑がかかりそうな時に、やむを得ず操作をさせる」「小学4年生になるまでゲーム禁止」という回答もあった。

### 7. 電子メディアが子どもに与える良い影響（自由記述・複数回答）(表1)

保護者が考える子どもに与える影響で良いと思う点は、987項目の記述があった。記述数は、1世帯あたり0~5項目であった。

「言語、文字、数を覚える」257世帯、「知識、情

表1 電子メディアが子どもに与える良い影響について（自由記述）

カテゴリ	具体的な記述項目	回答数
1. 知識・教養が豊かになる (700)	言語、文字、数を覚える	257
	知識、情報を得る	178
	うた、ダンス、楽器を覚え、楽しむ	90
	世界、興味が広がる	79
	知育、学べる・勉強になる	45
	視覚的でわかりやすい	20
	機械操作に慣れる	16
	できない体験の疑似体験、見られないものが見える	11
	遊びのレパートリーが増えた	2
	本や図鑑を見るようになった	1
	絵が描けるようになる	1
2. 共通の話題が見つかる (80)	会話のきっかけになる	47
	友だち・家族と一緒に遊べる・楽しめる	26
	好み・興味がわかる	5
	流行がわかる	2
3. 退屈せずに時間を過ごせる (66)	静かに過ごせる（公共の場など）	30
	気分転換、ストレス発散（楽しい）	25
	退屈せずに待てる、静かに待てる	6
	静かに過ごせる（家の中）	4
	夢中になれる	1
4. 内面的な発育を促す役割が期待できる (59)	集中力が高まる	21
	思考力が養われる	12
	想像力・創造力が養われる	8
	感受性豊かになる	8
	人の気持ちがわかる、共感する力が養われる	5
	表現力がアップする	3
	記憶力が向上する	1
判断力がつく	1	
5. 調べたいものがすぐわかる (29)	すぐわかる、調べられる	24
	問題の解決策がわかる	4
	説明できる	1
6. 連絡手段、記録が残せる (11)	思い出を残せ、共有できる	7
	遠くにいる友だち・親族と連絡が取れる	4
7. 基本的な生活習慣やルールが学べる (7)	生活動作・生活習慣のよい手本となる	3
	手伝いができるようになる	1
	早起きできるようになった	1
	あいさつができる	1
	時間を守ることを学べる	1
8. 良い刺激となる (3)	良い刺激になる	3
9. わからない (32)	わからない、特になし	32

報を得る」178世帯、「うた、ダンス、楽器を覚え、楽しむ」90世帯、「世界、興味が広がる」79世帯などの【知識・教養が豊かになる】という回答が大半を占めた。

次に、「会話のきっかけになる」47世帯、「友だち・家族と一緒に遊べる・楽しめる」26世帯などの【共通の話題が見つかる】が多かった。

「静かに過ごせる（公共の場など）」30世帯、「気分転換、ストレス発散」25世帯などの【退屈せずに時間を過ごせる】があった。

「集中力が高まる」21世帯、「思考力が養われる」12世帯、「想像力・創造力が養われる」8世帯、「感受性豊かになる」8世帯などの【内面的な発育を促す役割が期待できる】、「すぐわかる、調べられる」24世帯などの【調べたいものがすぐわかる】、「思い出を残せ、共有できる」7世帯などの【連絡手段、記録が残せる】、「生活動作・生活習慣の良い手本となる」3世帯などの【基本的生活習慣やルールが学べる】もあった。一方、「わからない」という回答もあった。

#### 8. 電子メディアが子どもに与える悪い影響（自由記述・複数回答）（表2）

保護者が考える子どもに与える影響で悪いと思う点は、1,376項目の記述があった。記述数は、1世帯あたり0~6項目であった。

特に、「視力低下」502世帯、「ブルーライト」3世帯などの【視力の低下・悪化】が多かった。

次に、「依存性が高まる（やめたがらない、切り替えができない、自己統制できない）」166世帯、「メディアに集中しすぎる（周りや時間が見えなくなる、返事をしない、ほかのことをしない）」104世帯、「やりたいとごねる、取り上げると怒る」9世帯などの【依存性が高まる不安】であった。

「会話の減少、コミュニケーション能力の低下、言葉の発達の遅れ」97世帯、「言葉遣いが悪くなる」73世帯などの【言語発達や会話能力の低下】もあった。

「外遊びの減少」44世帯、「運動不足」28世帯、「姿勢・身体が悪くなる」27世帯などの【経験不足による体力の低下】があった。

「悪い内容、見て欲しくない内容」48世帯、「悪い真似をする、悪いことを覚える」29世帯などの【好ましくない情報を受け取る】、「生活の中心になった、やるべきことが後回しになる」11世帯、「寝不

足、不眠、寝つきが悪い、朝起きられない」11世帯、「生活リズムの乱れ」9世帯、「食事に集中できない、食事中も見えてしまう」8世帯などの【生活習慣の乱れ】、「感情が短絡的になる（短気になる、キレやすい）」30世帯、「けんかになる」10世帯、「心の発達への悪影響」5世帯、「感情表現・感受性の低下」2世帯などの【こころの発達の未熟性】、「思考力低下」14世帯、「自発性の低下、受け身になる（メディアからの一方通行）」11世帯、「想像力・創造力の低下・欠如」6世帯、「集中力低下」6世帯などの【発展する思考力の低下・欠如】、「脳、神経への影響」21世帯、「電磁波、電波の影響」9世帯の【脳や神経への悪い影響】、「家族の時間が減る」8世帯、「子どもがひとりで過ごしてしまう」6世帯の【家族コミュニケーションの減少】、【聴力の低下】、【いじめなどの引き金】であった。

## IV. 考 察

### 1. 電子メディア使用について保護者の意識を踏まえた啓発

子どもに与える影響で、保護者が良いと思うものは987項目の記述があり、悪いと思うものは1,376項目の記述があり、良いと思う記述数の1.4倍であった。特に、悪いと思う影響では、視力低下やブルーライトなどの【視力の低下・悪化】について記述が多かった。6歳までが視力の未熟な期間であり、子どもの目の働きにとってこの期間の管理が子どもの目の一生を決める（湖崎、田中、1997）。乳幼児期の視覚は、色や大きさをありのままに見て学習するだけでなく、近くのものや遠くのものを見ることによって、脳内で情報処理が行われ奥行きなどの立体視が発達する。しかし、電子メディアは、二次元の画面であるため立体視の発達が育まれないこと、また、光刺激であるため子どもにとって過剰な刺激となる。子どもの形態学および生理学的な発達プロセスを踏まえて保護者へ伝える必要がある。

子どもが電子メディアを使用する場面（図1）は、「アニメ・特撮番組」や「幼児教育番組」「娯楽番組」の視聴などであった。電子メディアは、音声や映像があり、視覚的な刺激や聴覚からの刺激などの情報が入りやすく、子どもが好み楽しめる要素が多い。特に、幼児教育番組は、リズムやキャラクターなど趣向が凝らしており、今回の調査においても「幼児

表2 電子メディアが子どもに与える悪い影響 (自由記述)

カテゴリ	具体的な記述項目	回答数
1. 視力の低下・悪化 (507)	視力低下	502
	ブルーライト	3
	目の疲れ	1
	目つき	1
2. 依存性が高まる不安 (292)	依存性が高まる (やめたがらない、切り替えができない、自己統制できない)	166
	メディアに集中しすぎる (周りや時間が見えなくなる、返事をしない、ほかのことをしない)	104
	やりたいとごねる、取り上げると怒る	9
	メディアを使うことの慢性化・使うことが当たり前になる	3
	勝手に使っている	3
	すぐ見ようとする	3
	見せないとイラつく	2
	ネットを使うことが目標になる	1
	幼いうちからスマホを使うこと	1
	3. 言語発達や会話能力の低下 (171)	会話の減少、コミュニケーション能力の低下、言葉の発達の遅れ
言葉遣いが悪くなる		73
話を聞かない		1
4. 経験不足による体力の低下 (104)	外遊びの減少	44
	運動不足	28
	姿勢・身体が悪くなる	27
	その場から動かなくなる	3
	触感が鈍る	1
5. 好ましくない情報を受け取る (96)	悪い内容、見て欲しくない内容	48
	悪い真似をする、悪いことを覚える	29
	物欲喚起	11
	間違った情報	6
	影響を受けやすい	2
6. 生活習慣の乱れ (52)	生活の中心になった、やるべきことが後回しになる	11
	寝不足、不眠、寝つきが悪い、朝起きられない	11
	生活リズムの乱れ	9
	食事に集中できない、食事中も見てしまう	8
	時間の無駄	6
	時間が守れない(だらだら、ながら)	4
	ルールを破る	2
トイレに行けなくなった	1	
7. こころの発達の未熟性 (50)	感情が短絡的になる(短気になる、キレやすい)	30
	けんかになる	10
	こころの発達への悪影響	5
	感情表現・感受性の低下	2
	待てなくなる	1
	落ち着きがない	1
性格が悪くなりそう	1	
8. 発展する思考力の低下・欠如 (43)	思考力低下	14
	自発性の低下、受け身になる(メディアからの一方通行)	11
	想像力・創造力の低下・欠如	6
	集中力低下	6
	勉強をしなくなる	3
	発見する力の低下	2
応用力の低下	1	
9. 脳や神経への悪い影響 (30)	脳、神経への影響	21
	電磁波、電波の影響	9
10. 家族コミュニケーションの減少 (14)	家族の時間が減る	8
	子どもがひとりで過ごしてしまう	6
11. 聴力の低下 (2)	聴力低下	2
12. いじめなどの引き金 (1)	いじめにつながる	1
13. 特になし (14)	特になし	14

教育番組」の活用は683世帯(41.3%)と約半数を占めた。また、電子メディアの良い影響として、「言語、文字、数を覚える」、「知識、情報を得る」、「うた、ダンス、楽器を覚え、楽しむ」、「世界、興味が広がる」などの【知識・教養が豊かになる】という回答が多かった。このことから、電子メディア接触は悪い影響ばかりでなく、上手に使うことによって子どもの発達を促せる一面を感じている保護者がいた。したがって、電子メディアによる身体への悪影響を最小限にするために、使用する場合は、一定の使用時間ごとに休息を取り入れるなどの具体的な方法を提示することが重要である。子どもが電子メディアに無秩序に触れることがないように、今回の調査においても記述のあった「時間や時間帯を決める」、「一定時間後休憩をとる」、「寝る前の使用禁止」などの【利用時間に関する】ルールをさらに意識できるように推奨していきたい。

## 2. 今後の啓発活動について

電子メディアの良い影響として、【共通の話題が見つかる】や【退屈せずに時間を過ごせる】などを保護者が感じ活用していることが明らかとなった(図1、表1)。日本小児科医会はポスターやパンフレットを掲示し、「スマホに子守をさせないで」、「遊びは子どもの主食です～スマホを置いて ふれあい遊びを～」など、さまざまな言葉やイラストで保護者に届くよう工夫している。ベネッセ報告(久保木、田村、高岡、2018)によると、乳幼児の母親のスマートフォン使用率は、2013年は60.5%、2017年は92.4%へと増加していた。電子メディアとの接触や活用頻度は、いつでもどこでも可能な状況に変化し、身近で手軽な存在となっている。さらに、清川(2016)は、「若い親たちが子どもをおとなしくさせるのに便利なため、安易にスマホやタブレット端末を使うことになりがち」(p. 653)と警告している。

今回の調査では、家族が子どもと遊ぶ時間が平日に1時間以上確保できている家庭が45.5%を占めていた。一方、平日に1歳児で2時間以上、2歳児から6歳児で3時間近く電子メディアに接触している家庭があることも明らかになった。帰宅から入眠までの限られた時間から推察すると、遊びの内容は電子メディアに接触している可能性が低くはない。電子メディア機器が多様に存在している状況で子育てをしている保護者に対して、電子メディアに代わる

具体的なかかわり方として、身体を使った遊びや絵本、市販のおもちゃや手作りおもちゃの遊びなどの提示は効果が高いと思われる。さらに、電子メディア接触直後に就眠すると脳への興奮作用が残るため、質の良い睡眠に導くためには、電子メディアに接触しない時間の確保が必要である。そのかかわりの一つとして、就寝前の読み聞かせは有効である。本調査では、82.1%の家庭が就寝前に読み聞かせを行っていた。この読み聞かせが、子どもの成長発達に重要なかかわりであることを保護者が実感できると、さらに行動に結び付くと思われる。保護者は、具体的なかかわり方がわかると実行することができる。

これらの内容を保護者へ啓発する機会の一つとして、乳幼児健康診査は受診率が高いことから有効である。現在、市と連携し、乳幼児健康診査の待合時間を活用した啓発活動に取り組む準備を行っている。乳幼児期の成長発達に必要な親子の触れ合いやかかわりについて、保護者が学べる機会を増やし、楽しみながら子育てができるよう推奨することが重要である。

## V. 研究の限界と今後の課題

本研究は、A県乳幼児の保護者を対象に調査したもので、対象数が少ない。また、電子メディア機器は日々新しいものが開発されているため、社会の動向を把握し、保護者の思いや時代に応じた啓発活動を意識し取り組む必要がある。

## VI. 結論

保護者は電子メディア接触による良い影響として、知識や教養が豊かになる、話題が見つかる、内面的な発育を促す役割などを感じていた。また、悪い影響として、視力低下、依存性、コミュニケーション能力の低下、体力の低下などを感じていた。保護者は両方の特性を意識しているが、良い影響より悪い影響についての記述数が多く関心が高かった。電子メディアを見る時のルールを設けている家庭は6割を占め、特に利用時間や使用環境についての記述が多かった。保護者の思いを支持しつつ、さらに、子どもの成長発達や親子の触れ合いを推奨する具体的な支援の取り組みが重要である。

**謝 辞** 本研究にご協力いただいた幼保連携型認定こども園園長の皆さま、保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。

本研究は、2017年度乳幼児親子の電子メディア接触実態調査の一部であり、日本小児看護学会第28回学術集会にて発表した内容に加筆・修正した。

## 文 献

- 甲斐鈴恵, 吉田幸代 (2018). 乳幼児の電子メディア接触時間実態と今後の課題—宮崎県内認定こども園等に通う子どもの保護者アンケート調査から—. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報, 平成29年度版(第7号), 13-21.
- 清川輝元 (2015). 進行する子どもの「劣化」: スマホ社会の落とし穴. 月刊地域保健, 46(11), 18-23.
- 清川輝基 (2016). 「メディア漬け」で壊れる子どもたち—スマホ社会の落とし穴(解説/特集(特集 子どもとメディア—インターネット, ソーシャルメディア対策を中心に)). 保健師ジャーナル, 70(8), 652-658.
- 湖崎克, 田中尚子 (1997). 小児の目の病気. 医歯薬出版.
- 久保木有希子, 田村徳子, 高岡純子 (2018). 第2回 乳幼児の親子のメディア活用調査報告書. 木村治生(編), (株)ベネッセ教育総合研究所 研究所報, 68, 17-52.
- 日本小児科医会「子どもとメディア」対策委員会 (2004). 「子どもとメディア」の問題に対する提言. 日本小児科医学会会報, 27, 7-10.
- 澤井遼, 浅野純一, 藤本保 他 (2005). 「子どもとメディア」に関する意識調査—乳幼児期のテレビ・ビデオ長時間視聴が子どもの発達, 行動におよぼす影響. 日本小児科医学会会報, 30, 113-119.
- 武居正郎 (2005). 「子どもとメディア」提言を出したいきさつ. 東京小児科医会報, 23(巻3), 3-6.
- 玉名市保育会, 玉名市立保育園協会 (2013). 平成25年度玉名公私立保育所(園) 第2回園児生活実態調査報告 各園メディア担当者委員会まとめ 報告書.





